

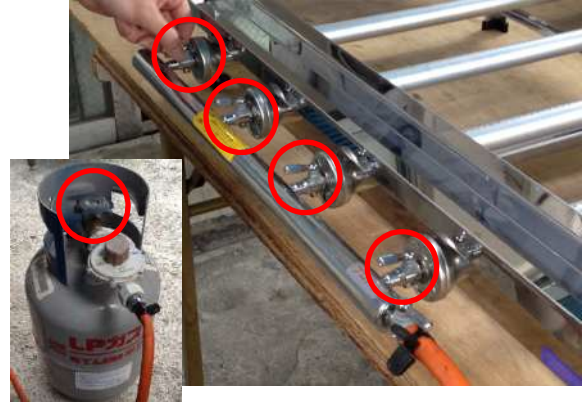
- 取り扱い説明書 -

■鉄板焼き機の組み立て方

1. ガス管を通します。

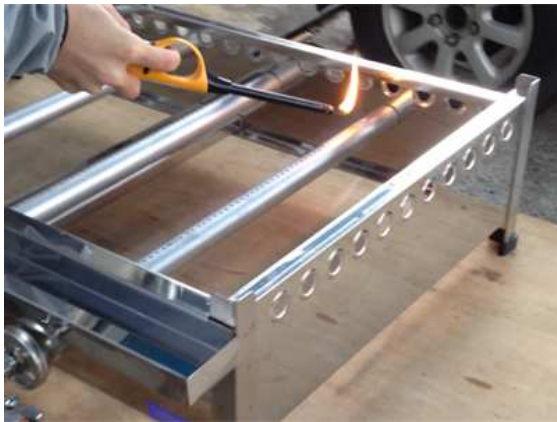


2. ガスタンクのパルプを緩め、すべてのコックを開けます。



※バルブを緩める前は、必ずコックが閉まっていることを確認して下さい。

3. バーナーに着火します。



4. 鉄板を乗せます。



※着火後は大変熱くなっております。
必ず軍手を着用し、二人で鉄板を載せて下さい。

これで準備 OK !

- 便利なご使用方法 -

4つのスペースで火力調整可能！



例えば、先にお肉を焼いていて、一旦端に寄せて野菜を焼きたい時でも、1つのスペースの火力を消して置いておけばお肉が焦げる事ありません！

トユヤストッパーの縁がありますので、豪快に料理を作っても食品が落ちたりこぼれたりしません！



鉄板器具周辺の汚れを気にする必要がありません。

周りが汚れていると見た目も悪いので、せっかくの料理が美味しそうに見えません！

調理の途中で火が消えたとしても、側面の穴からチャッカマンを使って再点火できます！



わざわざ熱くなっている鉄板を動かさずに火を着火する事が出来ます！

一か所付けると、全体的に火が広がる構造になっているので便利です！

- メンテナンス方法 -

ある程度綺麗にしてからご返却下さい。



火をつけたまま掃除すると楽に汚れが取れます。



外側側面も忘れずに汚れをチェックしてください。

鉄板掃除の完了目安はこのような状態です。



■詳細は弊社HP「広島焼き機レンタルページ」をご確認下さい！

QRコード



URL

http://event21.co.jp/mat_179.htm

ご使用開始にあたって

■ガス器具に合ったガスをご使用ください

プロパンガスと表示のあるガス器具

家庭用低圧プロパンガス専用です。ご家庭でガス器具を接続しているプロパンガスの元栓、もしくは、低圧のガス圧調整器の付いたプロパンガスボンベに接続してご使用ください。(中圧・高圧のガスボンベに接続するとガス漏れをおこして、そのガス器具は使えなくなりますのでご注意ください。)

接続は、プロパンガス用ガスホース(9.5mm)をおこないます。



<手順1>前管のネジを弛める(図1参照)

<手順2>前管を本体のバーナー先端に差し込む。(図2参照)

[注1] レギュレーターをコックにつく締め付けしないでください。レギュレーターを締め付けすぎるとコックに過剰な力がかかり、コックの付け根(手前のパイプとの継ぎ目)からガス漏れを起こす心配があります。レギュレーターはコックに軽く締め付けた状態から半回転程度緩めた状態にし、空気調整の窓が軽く動く程度で使用してください。

[注2] 前管は、バーナー先端がレギュレーター内の突起に軽く当たる程度まで差し込んでください。バーナー先端が、レギュレーターに2cm程度入るぐらいです。器具本体から突き出ているバーナー先端が、すべてレギュレーターに隠れる必要はありません。また、レギュレーター口径が本体バーナー径より大きく、すき間があります。これはガスと空気を混合するために必要なすき間ですのでガス漏れの心配はありません。

<手順3>前管のネジを締める。

[注] 前管がバーナーに固定されます。固定されないときは、前管の差し込み方が不足していますので、再度1からやり直してください

■空気を調整してください

ひとまず空気調整の窓を全て閉めた状態で火を付け炎の状態を見ながら、必要に応じて窓を少しずつ開けてください。



■火の走りが悪い場合

- 1) 鉄板やたこ鍋など付属品は取り付けてから点火してください。
- 2) コックを全開しガスが流れ出してからすみやかに点火してください。
- 3) 空気調整をやや閉めてください。
(特に天然ガスの場合は完全に閉めたくらいが適当です)

■火災予防・ガス事故防止のため

△ 警告 ガス漏れは、爆発やガス中毒などの重大な事故の原因となります。事故防止のためガスの状態を常に監視し、下記の項目を必ずお守りください。

- 調理中は、煮こぼれやガスホースの絡みつけ、吹き込み漏れ、その他の原因で火が消えたり、何らかの理由でコックが閉くなどしてガスが漏れることがあります。使用中はガス器具のそばを離れず、常に目と鼻でガスの燃焼状況を確認してください。
- ガスの匂いがしましたら、ガス漏れのおそれがあります。この場合は、電気製品のスウィッチの入・切、プラグの抜き差しや火災の使用をしないですぐに次の処置をしてください。
 - 直ちに火を止め、ガスの元栓を閉める。
 - 窓や戸を開けてガスを外へ出す。
 - ガス器具からのガス漏れが止まらないうちに点検修理を受けるまで使用をお控ください。
- 火をつけたまま外出などコンロのそばを離れたり、就寝しないでください。
- ガス器具の移動は必ずガスの元栓を閉めてから行ってください。
- 炎が小さいと自然に火が消えてガス漏れの原因となることがあります。火は中火以上でお使いください。
- ガス器具がバックファイヤー（バーナー部分ではなくその手前のガス管内部に火がついた状態）を起こしている場合、危険ですのですぐに火を消して正常な状態に火を付けないおしください。
- 使用中に息を開けるか、換気扇を回すなど、換気をして閉め切った部屋では使用しないでください。
- ガス器具を本来の調理目的以外に使用したり、市販の補助用具を使用したりはしないでください。

■自動点火（圧電）式バーナーの使用について

△ 警告 自動点火バーナーは強い音を聞かせることで爆発させる場合があります。操作の際は十分に注意してください。

圧電式の自動点火バーナーはコックを振りきったときに1度だけ圧電素子から高圧の電流が流れ、種火用のガスに着火するようになっています。この際、コックを回すタイミングが早すぎますと、種火用のガスが出る前に高圧電流が流れてしまい種火に着火させることが出来ません。これを繰り返しますと生ガスが周辺に充満してしまい、爆発させる恐れがあります。コックを回す間にはゆっくりと返し、1〜2度着火動作をして着火できなかった場合は、続けて着火動作を行わず、換気の上、時間をおいてから行うようにしてください。

■空気調整について

△ 警告 空気調整が悪いと、不完全燃焼や立ち消えの原因ともなります。ガス器具ご使用の際は、必要に応じて精度、空気調整を行ってください。

レギュレーターのない機種は、炎の状態により空気調整が必要です。



炎の状態により、適宜レギュレーターを調整してください。

棒バーナーの火の走りが悪い場合は空気調整を別の気味（やや赤火きみ）にセットしてください。

■火傷（やけど）事故防止について

△ 警告 使用中、使用直後はガスが表が見えない部分にまで熱が伝わって、器具全体が高温になっていますので、取扱いには十分注意して下さい。

- 使用中、使用直後は調理部分だけでなく、器具全体（特に金属部分）が高温になっていますので必要などころ以外には手をふれないでください。
- 必要により器具に手または身体の一部および衣類などをふれる場合は、火傷防止の対策を講じてから行ってください。
- ガス器具がバックファイヤーを起こしている場合、ガスコック自体も熱くなる場合がありますので、ガスコックを操作する場合は注意してください。

■ガス器具のお手入れについて

△ 警告 ガス器具操作部分、バーナー自体には水をかけないでください。ガス器具が使えなくなる場合があります。

ガス器具をご使用中、火の出方の悪くなる場合があります。主な原因として以下のものがあります。

- 長期間の使用による、バーナーの劣化
 - 長期間の使用による、油煙等によるノズルの目詰まり
 - ガス管、ガスホース内のチリ、ほこりによるノズルの目詰まり
- この内、1のバーナー劣化に際しましては、バーナーの交換が必要となりますので販売店にご相談ください。
- またほこりによる目詰まりの場合、簡単なお手入れが必要です。次の「手順」に従いお手入れを実施してください。

<手順>

- 前管の取付け、取外し** の項目の<前管の取外し>に従って、前管を取り外す
- コックを開いた状態にする（ノズル掃除の際にコックを傷つけないため）
- 金色のノズルの穴を細い針状のものでつついて掃除する
- 前管の取付け、取外し** の項目の<前管の取付け>に従って、前管を取り付ける
- ガスの元栓をあげ、バーナーに点火し燃焼状態のテストを行う。
- 火の出のよくないときは、1に戻って再度ノズルの掃除をする。



ノズルはコックの反対側にあります（写真はコックの反対側から見たものです）

ノズルの掃除を実施しても火力の回復しない場合、バーナー劣化等の他の原因が考えられますので、販売店にご相談ください。

■前管の取付け、取外し

入荷商品の設置やお手入れの際は次の手順にて前管の取付け、取外しをしてください。

<前管の取外し>

- 1) ガスの元栓を閉める
- 2) 前管（またはバーナーヘッド）を取り付けているネジを締め（図2-1~4 参照）、前管（またはバーナーヘッド）を手前に引いて取り外す（図3-1~4参照）



ご使用開始前に必ずお読みください

保存版

ご使用上の注意

このたびは、当社ガス機器をお買い上げいただき誠にありがとうございました。本製品を安全に正しくお使いいただくために、ご使用前に必ずこの「ご使用上の注意」をお読みください。また、この注意書は保存いただき、必要なときに都度お読みください。

■ご使用前の準備と確認

▲ 警告 使用前には必ずガス漏れの確認、点火、消火の確認をしてからご使用ください。故障または破損したと思われるものは使用しないでください。

- ① ガスホースの接続はすべてのコックおよびガス元栓を閉じてから行ってください。
- ② ガスホースは新しいものを使用し、器具に接触しないようにお使いください。
- ③ 器具に表示されているガス種以外のガスは使用しないでください。
- ④ LPガスをご使用の場合は、必ず低圧ガバナー（ガス圧調整器）をご使用ください。中・高圧のガバナーを使用されますとガス漏れを起こし、ガス器具が使えなくなります。
- ⑤ 使用開始直後は、ガスホース、ガス器具内に空気の入っている場合がありますのですぐに火のつかないことがあります。
- ⑥ 自動点火のガス器具で、1～2度着火動作を行っても火のつかない場合、ガスが器具内および周辺に充満して爆発の恐れがありますので、続けて着火動作を行わず、換気の上、時間を置いてから行うようにしてください。

■ガス器具の前管（ガスコック）の取り付けについて

ガス器具の出荷に際し、輸送途上の損傷をさけるために、前管またはコック部分を取り外して梱包している場合があります。この場合、お手数ですが **■前管の取付け、取外し** の項目の＜前管の取付け＞の記載に従い、前管またはコックを取り付けてご使用ください。

■設置場所について

▲ 警告 下記のような場所での使用は火災やガス漏れの原因となり大変危険です。絶対にお避けください。

- ・引火物（ガソリン、灯油、ガス）などが近くにある場所
- ・燃えやすいものや熱に弱いものそばや上
- ・落下物の危険のある場所
- ・風の当たる場所（屋外でご使用の場合は風よけのための風防をご準備ください）
- ・換気の悪い場所（屋内でご使用の場合はフードを取り付けるなどして十分換気してください）
- ・不安定な場所
- ・ガス器具に何かと接触する可能性のある場所

▲ 注意 家具や壁、木造構造物などの可燃物が近くにある場合、熱が伝わらないよう断熱処置を施してください。これらが熱せられて低温火災の原因となることがあります。

▲ 注意 テーブル上でのご使用の際はガス機器の熱によりテーブル、テーブルクロスなどが損傷する恐れがありますので、必ず断熱材を下に敷いてご使用ください。